

日本高齢者運動連絡会ニュース

発行責任者 藤谷 恵三 発行所 日本高齢者運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
Tel/Fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com

発行：毎月1日
2015年6月1日
No.298



第24期日本高齢者運動連絡会総会＝議長は神田氏（建交労）

高齢期運動広め、平和で安心なまちづくりを 第24期(2015年度)日高連総会 第29回日本高齢者大会中央実行委員会 日本高齢者運動連絡会

日本高齢者運動連絡会（日高連）は5月28日午後、第24期（2015年度）総会を新日本婦人の会中央本部会議室で開き、総会に続いて第29回日本高齢者大会（和歌山）第2回中央実行委員会を開きました。参加者は26県・31人、中央団体8人、事務局など5人の計44人。

◇

第1号議案

情勢と高齢期運動の課題について

(1) 高齢者をとりまく情勢

①安倍政権の憲法改悪で「海外で戦争する国」へ突き進む政治と対峙する②国民生活破壊のアベノミクスと社会保障解体③高齢者の虐待など人権侵害が広がる④住民参加で住民が抱える問題を解決できる地域包括ケ

アづくりを⑤未来ある展望を持てる地方自治体をつくりましょう。

(2)高齢期運動を地域に広げ、まちづくりのとりくみを強める。このような厳しい情勢の中で、高齢期運動は、地域で高齢者が、孤立しない、認知症になっても住み続けられるまちづくり、子どもも健やかに育つまちづくり、平和で安心、住民福祉を基本にした自治体づくりにとりくみます。



第 23 期活動報告と第 24 期活動方針

(1)地域要求運動発展への援助と、全国的政策課題実現のための連帯をはかる(2)日本高齢者大会を企画し、大会成功のために中央実行委員会を結成し運営に参加(3)関係団体との連携・交流をはかる(4)調査・研究・学習に取り組み高齢者運動大学の開催(5)情報・資料の収集と提供。学習資料、宣伝資料などの出版(6)国際的な交流と連帯のとりくみ(7)ブロック・県連の活動への支援(8)日本高齢者運動連絡会の組織運営。

このあと第 2 号議案 第 23 期会計報告・監査報告及び第 24 期予算案、第 3 号議案役員選出の報告提案と「総会決議」を採択して閉会しました。



日本高齢者運動連絡会役員は、
事務局長 藤谷恵三氏（新任）

新たに次長体制にします（若干名、12月に選出）

会計監査 早川明好氏

秋山明子氏

顧問 篠崎次男氏

上坪陽氏（新任）



議案に対して各地の取り組みについて 11 人から発言がありました。

香川県(北村さん)から高松市の見守り活動が広がっている。医療生協では、居場所づくりを 10 力所つかった。大分(大伴さん)では、戦争体験を若い人に語るとりくみ、町会で 65 歳以上のサロンをつくり 40 人が参加さらに広げていく。日本高齢者運動連絡会として戦争体験を語るとりくみを提起すべきだ。徳島県(井上さん)から年金裁判のとりくみ、若



北村さん（香川県）



大伴さん(大分県)

手弁護士が参加している。支援するとりくみをマスコミが報道した。兵庫県(河本さん)から、認知症サポーター3000人養成した。認知症の人を家族だけで見守ることは難しい、『でんちゃん』(でんでんむしのワッペン)が伝える支え合いの輪を広げている。三重県(寺崎さん)からは、介護総合事業の開始の前に県内全事業所アンケートを訪問して回収しまとめた。利用者の立場から発信していく。福島(伊藤さん)から、戦争体験を語る場をもっと広げていく必要がある。原発関連死が1905人になった。県内で元県知事佐藤氏などと沖縄と連帯する会を作った。新婦人(山元さん)から、戦争法案にレッドカードのとりくみ、駅頭宣伝や国会傍聴などのとりくみで怒りの反応がある。地域の小组が介護カフェなど開き、学んだことを要望にしていく運動を広げている。年金者組合(森口さん)は、年金裁判の提訴者数が2000人を超える勢いで進んでいる。千葉県(樋口さん)から、監査報告の表題を会計監査とすべきとの意見が出されました。福岡県(古谷さん)から、県高連の総会を10月に開く。これからは”おとなり福祉”が大事だ。子どもたちの未来は地域で育つ、子どもの居場所づくりのとりくみも取り組んでほしい。東京(小嶋さん)から、認知症のとりくみ、居場所づくりのとりくみ報告。

第 30 回高齢者大会の東京開催を決定するまでの論議の論点などについて報告がありました。



中央実行委員会は、大鶴(愛知)さんの司会で始まりました。冒頭中谷和歌山県実行委員長から挨拶があり、地域実行委員会を中心に活動が進んでいること、大会参加費補助のため財政活動に取り組み始めたことなど報告があり、ぜひ全国から参加してほしいと呼びかけがされました。続いて父川和歌山県実行委員会事務局長から企画ができたこと、和歌山大学の協力援助などで受け入れの準備を進めている。和歌山名産の物産販売について説明があり全国でも活用してほしいと訴えがありました。

参加者からは、県内の参加要項をつくり取り組みを始めたことなど報告がありました。実行委員会への要望として、宿泊に対する援助を今年も続けてほしいなど意見が出されました。

最後に司会者から大会成功のため頑張ろうとしめくくり会を終わりました。

第 2 4 期日本高齢者運動連絡会総会への挨拶

第 29 回高齢者大会実行委員長
全日本民医連会長 藤末 衛

総会おめでとうございます。戦争の凄惨さと戦後の憲法擁護のたたかいを知る高齢者の言葉と行動が今ほど重要な時期はありません。安倍暴走政治ストップと第 29 回高齢者大会成功にむけ力を合わせましょう。

安倍政権は、まず秘密保護法、そして集団的自衛権行使容認、日米ガイドライン再改定、いよいよ実際的な戦争法制の確立へ突き進んでいます。また、社会保障は聖域なく見直して公的給付は縮小し、医療介護は営利市場化をすすめています。公的サービスの徹底民営化と一部大企業の利益優先をもくろんだ大阪都構想が大阪市民の手で中止されましたが、今後全国各地で憲法どおりに社会保

障の充実と地方自治発展の実践をすすめることが重要です。国益を掲げ、国民を危険にさらす政府の歴史を体験し、国民による平和と民主主義をもとめる運動経験のある高齢者の行動が今ほど全体を励ます時はありません。

第 29 回高齢者大会は、「戦後 70 年、憲法を生かし格差のない公正な社会を」をテーマに和歌山で開催されます。豊かな経験を持ち寄り、新しい運動の起点とするためともに奮闘しましょう。

“ 戦争法案 ” の廃案を求める決議

安倍内閣は、今月 14 日に閣議決定した戦争法案（「平和安全法制」）を、翌 15 日には国会へ上程し今国会中には成立させるとしている。

この「平和安全法制」は、『日米同盟を強化することによって抑止力が増し、日本の安全が守られる』ことにつながるとしているが、その中身は“後方支援という名の戦闘参加”であり、このまま施行させてはならない。

さらに許すことの出来ないことは、法案の国会提出前に米国議会で“法案成立”を約束してきたことであり、日米ガイドラインの変更協議で、実質的に法案の内容で改定しようとしていることである。

憲法 9 条は『武力行使による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては永久にこれを放棄する』と明文化しており、これに真っ向から反するものである。

私たち高齢者は戦争の体験者であり、その悲惨さ・残酷さを承知している。なんとしても、この法案を廃止に追い込むために、私たち高齢者はこの闘いの先頭にたって立ち上がることを決意し、内外に表明するものである。

私たち高齢者運動連絡会は全国の仲間、そして全国の高齢者・国民に呼びかける、「声を挙げよう」「行動しよう」と。

私たち高齢者は、3000 万人高齢者の総力をあげ、日本全土で廃止を求める運動を展開

する決意である。あの戦争の悲惨さから孫子を守り平和をまもるために、“ふたたび戦争への道を歩まない”“戦争する国にはしない”ことを追求し、断固として廃止に追い込むま

で闘い抜こう。以上決議する。

2015年5月28日

日本高齢者運動連絡会 2015年度総会

5・12「福島県高齢者運動連絡会 2015年度総会」 平和と福祉の国づくりを地域から

福島県高齢者運動連絡会

福島県高齢者運動連絡会は 2015 年度総会を5月12日、郡山医療生協組合員センターで開きました。

2015年度活動方針は、①第28回福島県高齢者大会の成功と第29回福島県高齢者大会に向けて②日本国憲法を守り、活かして、平和と福祉の国づくりを地域からすすめます③第29回日本高齢者大会(和歌山)に代表を送ります④高齢者運動連絡会の強化につとめます。

「戦争法案」を許さず、
平和憲法を守り抜く決議

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

安倍内閣は5月14日に臨時閣議を開き、11ある法案を「国際平和支援法案」「重要影響事態法案」の2つにまとめて閣議決定し、15日には国会に提出するという暴挙に出ました。いわゆる「戦争法案」の国会提出です。戦後最悪の憲法破壊といわざるを得ない内容に強い怒りと憤りを覚えるものです。

2つの法案には、①アメリカが世界のどこであれ戦争に乗り出せば自衛隊はその「戦闘地域」で軍事支援をする。②戦乱が続く地域で自衛隊が武器を使って治安維持活動を行う。③集団的自衛権を発動してアメリカの無法な戦争に自衛隊が参戦する。という憲法破壊の大問題が含まれています。そもそも日本は戦争放棄を掲げる憲法9条の下で歴代内

閣が曲がりなりにも「歯止め」を設けてきましたし、国民の運動により、戦争する体制にはなっていませんでした。しかし、安倍政権によって、秘密保護法を強行採決し、国家安全保障会議の設置、武器輸出三原則の改悪、集団的自衛権の閣議決定とつぎつぎに「戦争できる」国づくりの体制づくりを進めてきました。さらに、文民統制をも骨抜きにしようとしています。

政治、経済、さらには文化体制まで、国全体を戦争に都合のいい形にしていこうとしています。

日本はアジア太平洋戦争で、国内で310万人もの犠牲者を出し、アジアの人たちには2000万人もの犠牲者を出す加害者となりました。こうした膨大な犠牲を反省し、日本国憲法を獲得することができました。とくに憲法9条では、戦争放棄を宣言し、戦争するための軍隊は持ちませんと世界に宣言し、軍隊を持たない平和国家として国際的な信用を得てきました。今回出された2つの法案は、戦後70年続いた平和な日本の安全保障政策を180度転換させようとする歴史的暴挙です。断じて許すことはできません。

私たちは福島県の各地域で、高齢期の生活保障の充実を願って日々活動している高齢者運動連絡会です。戦争体験者として、戦争のない世界であって欲しいし、平和な日本を残していくことが使命だと日々運動もしています。

本日、2015年度の総会を開催し、「日

本国憲法を守り、活かして、平和と福祉の国づくりを地域からすすめます」という方針を決定しました。この方針のもと日本を再び戦争する国にしようとする「戦争法案」に反対し、憲法9条を守り、活かす運動を多くの国民と力を合わせて、地域から行動していく決意です。

以上 決議します。

2015年5月15日

福島県高齢者運動連絡会総会

国民健康保険の広域化に反対し、 国民健康保険料の減額を求める決議

厚生労働大臣 塩崎 恭久 殿

貴厚生労働省から出された「医療保険制度改悪法案」が4月24日の衆議院厚生労働委員会でも可決され、5月13日に参議院本会議でも審議が始まりました。

国民健康保険の税額は各市町村で次年度必要とされる額を計算し、それを各市町村で決められている保険税課税方式に従って一人一人の額がきめられてきましたが、今回の法改革で国保の財政運営を市町村から都道府県に移管し、さらに保険料率は引き続き市町村が決めますが、市町村が納める「納付金」は都道府県が決め、「標準保険料率」も都道府県が示すとなっています。国民健康保険の広域化であり、反対です。さらに、今回の法改革での問題点と、反対する理由等は次の通りです。

①法案を主導してきたのは財務省であり、

医療費削減ありきの法案だということ。

②衆議院での法案審議はわずか3日間で、時間にして22時間（参考人質疑を含め）でした。国民健康保険法発足以来の改革を短時間審議で通過させる国民無視は許せません。

③各市町村の国民健康保険が一般会計から国保会計に繰り入れて支えているのが現状です。こうした一般会計からの繰入に圧力が強まり国保料が高くなるのが危惧されます。

④保険料が高くなれば保険料を払えなくて保険証が取り上げられ、病院に行けなくなることが心配されます。

⑤保険料が納められなければ、人権を無視した差押えなどの徴収強化が予想されます。

⑥子どもの医療無料など自治体独自の制度に圧力がかかるのではないかとこの心配もあります。

国民健康保険は国民皆保険として定着していますし、社会保障制度として国民が安心して生活できる制度の一つでもあります。しかし、保険料が高いとして保険料を支払うことができなくて保険証を取り上げられ、病院に行けずに亡くなるなど国民皆保険の空洞化も見られる現状、私たちは、国民健康保険の充実と保険料の減額を求めるものであって、公的医療保障を破壊する「医療保険制度改悪法案」には反対です。

以上、決議します。

2015年5月15日

福島県高齢者運動連絡会総会

地域からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう!! いきいき輝く高齢者運動－第3回山形県高齢者大会 会場一杯の550人参加で大盛況

新緑の中、5月10日（日）、福祉のまちづくりをめざす山形県最上町で第3回山形県高

齢者大会が開かれ、全県から500人を超える参加者で大成功でした。

4つのテーマの分科会

午前中は、4つの分科会で ①一人ぼっちの高齢者をなくし安心して暮らし続けられるまちづくり ②これからどうなる？介護保険の見直し ③だれもが安心できる年金制度 ④平和に生きる権利と日本国憲法の分科会がいずれも超満員の熱気あふれる分科会となりました。分科会では、報告者が基調報告を行い、フロアから地域での取り組みについて活発な発言が行われ、地域の高齢者の集う場所づくりの体験や、介護保険改定についての心配事や事業所運営について、年金の異常な削減と高齢者のセフティーネットについて、憲法を暮らしに生かす取り組みで知恵と工夫を凝らした取組みが必要、とりわけ平和を脅かす集団的自衛権の法制化は地域ぐるみで許さない運動を取り組もうと語られました。



第一分科会 一人ぼっちの高齢者をなくす
報告者 ゆうゆう百歳塾 吉野文夫塾長

文化行事/ヴァイオリン・ピアノ/演奏と朗読

午後には文化行事としてヴァイオリニストの池田敏美さんとピアニスト田中奈緒美さんの演奏と与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」の朗読と演奏に胸打たれました。

記念講演と記念講話 笑いの渦と共感の拍手

記念講演は「高齢者の健康づくりと社会参加」と題して、やまがた保健生協理事長の小川裕先生(医師)が講演しました。健康寿命と

社会参加を日頃の保健医療の実践と社会風刺を交えながら、腹を抱えながら笑える納得のいく講演でした。



記念講演 やまがた保健生協 小川 裕 先生(医師)

記念講話は岩手県沢内の光寿苑総合施設長(碧祥寺住職)の太田宣承さんから「一人十色の世界観—ありのままの今(いのち)を生きていこう」と題して講話されました。

「健やかに生まれ、健やかに育ち、健やかに老いる」沢内で特別養護老人ホームを運営されている講師は、「高齢者の尊厳を最大限守り」人生で輝いていた時に光を当てて自立を促す介護に心打たれました。また、自分の人生の挫折も赤裸々に語り、家族の深い愛情で立ち直れた体験や6人のお子さんを育てながらの介護事業運営、施設では「心の点滴」を大事にし、「次に来る旅人のために泉を清く保て」を座右の銘に頑張っている講話で、皆さん腹の底からの笑いで腑に落ちた講話となりました。



第3回山形県高齢者大会参加者



文化行事－ヴァイオリンとピアノ演奏そして朗読

山形高齢協から 80 人の参加

開催地の最上町では、この大会を成功させるために町をあげて準備しました。当日は 70 人のボランティアでそのうち 30 人の高校生もボランティアに参加して会場設営などにあたってくれました。これには、参加した高齢者も感激し現地の物産は完売となりました。

ありがとうございました。この取り組みを第 29 回日本高齢者大会和歌山大会に繋げます。



高齢協参加者の交流会－

さんのほりと鶴岡健康サークルの仲間

(山形県高齢者福祉生活協同組合理事長 菅原 文男)

「2015 年度関東甲信越ブロック会議」開く 高齢期運動を地域に広げまちづくりの取組みを強めよう 担当＝神奈川県高齢期運動連絡会

高齢期運動の関東甲信越ブロック会議が 4 月 28 日、横浜の年金者組合神奈川県本部の新事務所で行われました。参加は中央 2 人、新潟県 1 人、群馬県 1 人、茨城県 2 人、東京 2 人、地元神奈川県から 6 人が参加しました。土志田神奈川県高齢期代表委員の開会あいさつで始まり、日高連事務局長・鐘ヶ江氏から第 29 回日本高齢者和歌山大会の準備状況についての報告、その後各都県から取組みについて報告されました。

新潟県＝

地域からより良い高齢者社会をめざして

新潟県は、2008年の日本高齢者大会の翌年から、県の集会を毎年開催し、地域からより良い高齢者社会をめざし、要求を土台に学び、交流、励まし合い高齢者自身が元気になって社会に発信して行こうと取り組んでいます。第28回富山大会は延べ136人が参加、



県集会は75人が参加。第29回和歌山大会は40人の目標です。

群馬県＝

「ミニ学習会」の継続と「群馬県高齢者大会」の再開を・・・

群馬県は幹事会での「ミニ学習会」と団体間の活動交流を行い、地域連絡会の強化と「群馬県高齢者大会」の再開をめざします。第28回富山大会は延べ66人参加を。

茨城県＝

県高連運営委員の増員で組織の強化を・・・茨城県は後期高齢者医療制度連合と懇談し、①後期高齢者医療制度の保険料について②茨城県高齢者医療広域連合の短期保険証について③肺炎球菌ワクチン接種の75歳以上への補助について等を要請しました。組織強化のため県高連運営委員の増員を県内4地域や団体等に要請しています。第15回茨城県高齢者大会を11月下旬に開催予定。第28回富山大会は延べ50人が参加、県集会是250人が参加。第29回和歌山大会は25人の目標です。

東京＝

第30回高齢者大会の成功めざし、東京高連がひとつに・・・

東京高連の大きな取組みは、①高齢期要求実現の運動で、本部が中心の東京都への申し入れと交渉、区市町村の各自治体との交渉②日本高齢者大会を成功させる③東京の高齢者の集いを成功させる3つの取組みです。ひとつの変化は日本高齢者大会の参加で、一昨



年まで23区と3多摩は別々にツアーを組んでいましたが、第28回富山大会で初めて合同で宿舎を確保し、140人を超える大交流会を開きました。第30回大会は東京開催ということで、東京高連は一つになろうと実現しました。第28回富山大会は延べ354人が参加。都集会是500人が参加。第29回和歌山大会は140人の目標です。

意見交換後、次期開催地を新潟県に決定し、ブロック会議を終了しました。

(「輝け高齢期」第251号2015年5月15日より)

「現状の問題を広く知らせ、提起していく」

5月23日 第3回理事会開く

(社)日本高齢期運動サポートセンター

(社)日本高齢期運動サポートセンターの第3回理事会が5月23日に開かれました。

[1]報告事項 1.経過報告では、2014年度研究助成をおこなった4件の研究結果報告の状況報告がありました。報告書の取り扱いについては基準を明確にしていくことなどが確認されました。2.国連要請について、藤谷理事より報告がありました。

[2]協議事項 1.国連・権利条約を制定させる今後の運動について 2.2015年度事業計画 3.役員選任の件 4.会計報告 5.総会の件

今後の運動では、ホームページの充実や学習文化活動などを通して現状の問題を広く知らせていく、提起していくことなどが必要と議論されました。